

環境・安全推進委員会関連イベントの紹介

環境・安全推進委員会

はじめに

環境・安全推進委員会は、化学物質の総合管理に関する学際的研究と環境に優しいものづくりをベースとし、人類の発展と地球生態系保全の調和を図る化学の創造を目指して活動を行っています。ここでは例年実施しているイベントならびにほかの学協会と連携して運営しているイベントについて紹介します。

環境関連イベント

環境関連イベントの柱は『**環境教育講演会**』です。環境教育を担う教員や環境問題に取り組む技術者・研究者を主な対象としており、第15回目となる今年は8月10日に予定されています。「SDGs達成に向けたカーボンニュートラル実現のための化学技術(仮題)」というテーマで、気候変動、CO₂回収、再生可能エネルギー、水素、サーキュラーエコノミーなどのタイムリーな話題を含む幅広い内容の講演会になるものと思われませんが、本稿執筆時点では内容を詰めているところです。詳細のプログラムが確定次第、ホームページにてご案内いたします。

昨年の講演会は「化学から見る新型コロナウイルスとその対策」というテーマとしました。3人の講師から、新型コロナウイルス関連の話題として、マスク科学、石けんとアルコールの有効性、生体・免疫応答について講演いただいた後、「新型コロナウイルスに化学ができること」というタイトルでパネルディスカッションが行われました。感染症対策のため、オンラインのみでの開催となりましたが参加者は260名にのほりました。

その性格上、『**環境教育講演会**』には中学・高校の教員や一般人の関心も高いものと思われるので、そういう方々への

広報のやり方が課題です。

『**環境工学連合講演会**』は日本学術会議土木工学・建築学委員会が主催し、日本化学会をはじめ多くの学協会が共催するかたちで長年続いています。第34回の今年には日本化学会が幹事学会を務めます。「環境工学の22世紀」を総合テーマとし、地球環境・生活環境、カーボンニュートラルと資源循環をサブテーマとして5月31日に日本学術会議講堂とZoom ウェビナーのハイブリッド形式で開催されます。学術会議は使命として市民との対話を重要視しています。中学・高校の教員だけでなく、高校生や学生など若い世代の関心も呼びそうなテーマであり、多様な人々の参加を期待しています。

参加 URL : <https://rengo34.peatix.com/>

安全関連イベント

安全関連イベントの柱は『**化学安全スクーリング**』です。化学実験に関わる安全と衛生に関して総合的に学ぶ講習会で、安全・衛生管理の基本から、事故事例やヒヤリハット、そこから導き出される教訓と、必要な改善や安全教育のあり方、化学物質に潜在する危険性と安全な取扱方法、救急対処法、廃棄物の安全管理、化学物質の毒性と予防などについて、最新情報を基に多角的な視点から講義します。8月8日・9日、ハイブリッド形式で行う予定です。

<https://kagakukai.peatix.com/>

例年参加される受講者もいることから、応用事例や最近のトピックスを更新・充実させています。また、受講者からの質問・ケーススタディによるディスカッションを交え、能動的なスクーリングとなるようにしています。講義資料のほか、テキスト(安全な実験室実験のための化学安全ノート:丸善出版)を配布

します。

受講者としては、化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者、また化学のみならず広く科学分野で実験活動および実験施設に関わる大学・研究所の研究者・学生ならびに技術職員、さらには化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わる方など幅広い方を対象としています。

『**化学安全スクーリング**』は2000年初頭より続いています。昨年はコロナ禍によりオンラインで行われ、受講者は約40名でした。講義後の質問も多数チャットで投稿されました。「化学実験室における安全管理指導者の養成」というサブタイトルがついていましたが、企業からの参加者にもおおむね高評価をいただきました。広く、化学物質を取り扱う研究開発現場の方に参加をご検討いただきたく存じます。

『**安全工学シンポジウム**』は日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会が主催し、日本化学会を含む30以上の学協会が共催するかたちで毎年行われます。安全工学シンポジウム2022は6月29日から7月1日の3日間で幹事学会は土木学会です。「気候変動を見据えた安全・安心・安定」が今年のテーマです。2019年には日本化学会が幹事学会を務めました。

おわりに

参加者、受講者の声は私たちにとって大事です。フィードバックし、内容の改善、新たな企画の実施につなげたいと思いますので、多くの声をお寄せ下さい。

E-mail: env_safe@chemistry.or.jp

【環境・安全推進委員会 委員長
辰巳 敬(東工大名誉)】

© 2022 The Chemical Society of Japan